



平成 21 年度新事業創出・販路開拓ネットワーク整備・活用等事業

2010 年 1 月 28 日発行

展示会・見本市レポート第 5 1 号

発行：全国商工会連合会

編集：(財)日本立地センター

協力：全国イノベーション推進機関ネットワーク

34th JCSC ビジネスフェア[上]

逆境を好機にー

| | |
|--------|---|
| 会 期 | 2010年1月20日(水)～22日(金) |
| 会 場 | 東京ビッグサイト |
| 主 催 | 日本ショッピングセンター協会 |
| 後 援 | 経済産業省、国土交通省、農林水産省、中小企業庁、横浜市、日本経済新聞社、織研新聞社、日本繊維新聞社 |
| 事務局 | (http://www.jcsc.or.jp) |
| 出展者数 | 195社 |
| 小 間 数 | 365小間 |
| 小 間 料 | (3m×3m) 304,500円(税込み) |
| 募集期間 | 2009年5月～10月 |
| 来場者数 | 29,800名 |
| 出展業種 | SC 専業、駅ビル、百貨店、地下街、リサイクル、屋上緑化、再開発、不動産業、ファッション関連、靴、宝飾、生活雑貨、食品、飲食チェーン、アミューズメント、IT、エコロジー、店舗設計 等 |
| 来場者の職業 | デベロッパー、百貨店バイヤー、小売店、飲食店、環境関連メーカー、建設関連、設計事務所、不動産、インテリア、アパレル産業、ファッション産業、商店街、店舗設計、地方自治体 等 |
| 次回開催予定 | 2011年1月19日(水)～21日(金) |

発行：全国商工会連合会 企業支援部 市場開拓支援課 03-3503-1256

編集・問い合わせ：(財)日本立地センター 新事業支援部 03-3518-8964

時流商流

環境関連ビジネスを前面にSCアピール

同展は、日本ショッピングセンター協会（JCS C）の全国大会に併せて開催しているビジネスフェアである。今回で34回を数え、地球環境保護が国際的な課題となっているのを受け、テーマに「環境に配慮したSC（ショッピングセンター）づくり」を掲げ、初めてSCと環境を結びつけたコンセプトを前面に打ち出した。

環境に配慮したSCやテナント店のイメージアップを図る狙いだが、主催者には思わぬ効果をもたらしている。例年、ほぼ同じような出展者が多い中、「環境ゾーン」を中心に今回は新規出展企業が全出展者数の20%を占めたのだ。それだけ環境をビジネスのキーワードとして、可能な限り活用しようとの出展者の思いが込められている。

出展者の中には、直接的な環境関連製品メーカーでなくても、環境保護に力を入れている企業は多い。その意味で同展は、企業の社会的責任への取り組みをPRする、新たな出展目的を提供するものとなっている。



SC活用のベンチャー企業の出展も

SC協会は、会員数1,000社弱の全国組織。大手デベロッパーから中小・小規模企業までを網羅。出店者の80%は会員で、加工食品・生鮮食品メーカー、レストラン、寿司店チェーン、喫茶店など食品関連会社のほか、SCのテナントを活用するベンチャー企業の出展も目立った。

SC協会の環境への取り組みは、2007年度にCO2削減数値目標を設定。さらに2008年度を「SC環境元年」と位置づけ、2008年5月には環境対策委員会を設置した。展示会でも温暖化・省エネ対策など、委員会の研究の集大成を積極的にアピールした。



次頁からは、本展示会の中でもユニークな取り組みを行っている地域のブースを紹介する。

ブース細見

回転寿司チェーンの関東市場を強化

出 展 目 的 :FCの加盟店募集

代表商品の価格:FC加盟「1店舗」(178㎡)=8,000万円~9,000万円(保証金800万円含む)

札幌市のとっぴい(<http://www.toppii.jp>)は、関東地域で回転寿司のFC(フランチャイズチェーン)店募集のため出展。

同社は20年の実績を持つ回転寿司チェーン。寿司ネタは北海道の鮮魚にこだわり、専属の漁船と石狩養殖場を所有する。国内に北海道16店、福島県3店、関東地域4店の合計23店舗、海外は香港に4店舗を展開。このうちFC店は3社6店舗。出店は他店と競合しないショッピングセンター内に限定しているのが特徴。

今後5年間で関東地域を中心に、20店舗増やす計画。回転寿司市場は競争が激化しているものの、5年前から年率5%伸びているという。



イベント用「エコトレイン」のレンタル市場開拓

出 展 目 的 :販路開拓

代表商品の価格:レンタル料(5両編成・3日間)=50万円~60万円(税別)

愛媛県安城市のキャラクター工房(<http://www.15train.jp>)は、ショッピングセンターのイベント用子供向けレンタル用具「エコトレイン」の販路を開拓。

遊園地の造形物メーカーの同社が、「エコトレイン事業部」を設けたのは2009年1月。子供たちに夢のある電車を紹介しようと、タイヤの車輪を使ったオモチャの電車を紹介した。1車両に大人4人が乗れる大きさで、社内に甘い香りを漂わせ、テーマ音楽を流している。

基本ユニットは先端車両1両、客車5両で構成し、定員は子供30人。短期から長期および常設運行のレンタルに応じる。

エコに配慮した箸の販路を開拓

出 展 目 的 : 販路開拓

代表商品の価格: 箸「五角粋」(紫檀・すり漆仕上げ) = 5,250円(税込み)

福井県小浜市の兵左衛門 (<http://www.hyozaemon.co.jp>) は、オリジナルな箸の販路開拓のため出展。

同社は箸の生産シェアの80%を占める小浜市で、2010年に会社を設立して40年、創業して50年になる高級箸の専門メーカー。森林の乱伐防止のため、箸と同じ素材の木材「タモ」が使われているバットの折れた廃材や製造時の端材を再利用し、“かつとばし!!”の商品名で販売。箸で食べても安全な漆塗りにこだわる。

また、“お箸知育教室”を全国展開するなど、箸の普及活動と販売促進に取り組む。昨年は「マイハシブーム」で需要が伸びたが、今年は元の安定した市場に戻りつつあるという。販売は百貨店、箸の専門店が中心。直営店と取扱店の拡大を目指している。東京の展示会に年4回出展し、会場で箸のイベントを行なう。



全国の農家と提携し有機米をネット通販

出 展 目 的 : 販路開拓

代表商品の価格: 「オーガニック米」(500g ~ 5kg) = 500円 ~ 3,000円(税別)

東京の銀座農園 (<http://www.ginza-farm.jp>) は、提携農家の有機米のネット通販と都市菜園事業の販路を開拓。

同社は2007年10月に設立した農業関連ベンチャー。飯村一樹社長は茨城県下妻市の農家の出身。1級建築士として地域活性化コンサルタントに携わるうち、商店街を活性化するにはまず農業振興が不可欠との問題意識から起業する。

コメ作りをアピールするため、銀座1丁目に90㎡の田んぼを作る。趣旨に賛同した全国の有機栽培のコメ農家100戸と提携、単一米に特化したネット通販を立ち上げる。都市菜園事業はビルの屋上農園を希望者にレンタルする。